



○ 勝山市定住化促進事業の見直しについて ○ 宿泊税導入について

その他の質問

- ・Uターン奨励金事業等について
- ・国内や海外からの「リゾートウエディング」誘客について
- ・世界の情勢に対する平和教育について
- ・わくわくクラウドファンディング応援事業について

下道恵子 議員
市政会



議 勝山市定住化促進事業の1つに新築住宅取得に対する補助がある。申請の日付について、工事着工前に申請し、新築完了時は年度末の3月末日となっている。その期限に間に合わなくて補助金の対象にならなかった事例がある。また、40歳以下という年齢条件もあり使いにくいと聞いている。この2つの縛りを外すことができないか市の考えを伺う。

理 申請年度の3月末日の期限の変更は、国と県の補助メニューの上に乗って実施している関係から、3月末日までの実績報告を義務付けている。市単独で決めたルールではないが、引き続き、制度全体を柔軟な補助制度になるようには要望を続けたい。

市では過去のデータから18歳から39歳までの転出が多く、40歳以下の在住者に対する住宅取得支援が定住化促進に効果があると考え年齢を設定している。しかし、近年定年が延長され、健康寿命が伸びていることを考え、対象年齢の引き上げを検討していきたい。

議 北海道のニセコスキー場では、素泊まりの宿泊客に2%の宿泊税をかけている。これにより年間2億円の収入が望めるそうだ。宿泊税はスキー場の環境保護や周辺施設の維持管理に充当されている。今後勝山市も観光客の増加により、ごみ処理費用が増加することもふまえ、宿泊税導入を検討すべきと思うが市の考えを伺う。

理 宿泊税は、観光振興事業に要する費用などの財源として既に東京都や大阪府、京都市、金沢市などで導入されているが、県内ではまだ導入の実績はない。

市は現在、観光振興を進めており、観光客や宿泊者、そしてインバウンドの増加を優先しており、現時点においては、宿泊税を導入する考えは持ち合わせていない。ただし、将来において導入を検討する場合は、その新税の使い道の明確化はもちろん、新税導入によるマイナスの作用について、宿泊事業者などと意見交換の場を持ち、慎重に判断する必要があると考えている。



○ 中学校再編計画の経過について ○ スクールバス運転手確保について

その他の質問

- ・時間割について
- ・勝山市立中学校再編検討委員会答申について

森かよ子 議員
優政一心会



議 再編計画は、ハード面ソフト面で現在どのような問題を抱えているか。また、中学校再編を20年間議論してきたという事か。そして、平成23年の計画は市民の声が反映され先送りになったが、今回は市民の声が反映されないのはなぜか伺う。

理 現在、勝山市立中学校再編計画及び勝山市立中学校建設基本計画に基づき、新中学校開校に向け、より魅力的な新中学校となるよう、様々な点を検討課題として協議を進めている。校舎建設の実施設計の策定を進めるとともに、こども達の活発で主体的な学習活動と安全安心な学校生活の両立を図るための工夫、中高が連携した魅力的なカリキュラムの構築や部活動のあり方のほか、利便性の高いスクールバスの運行方法など、今後もしっかりと検討を進めていきたい。中学校再編は将来の勝山市のこども達にとって望ましい教育環境を実現することを目的に、長年にわたる様々な協議や検討を行ってきた。スタート時には小中学校の望ましいあり方検討委員

会において、将来のあり方を議論し、その後提示した素案について検討を重ねてきた。こうした協議を積み重ねて現在の再編計画や建設基本計画の策定に至っている。勝山市では、当初の予測を上回るスピードで生徒数の減少が進んでおり、令和9年度の開校に向けて準備をしっかりと進め、今後こども達にとって魅力的な学校となるよう意見や要望などいただきながら取り組んでいきたい。

議 中学校を統合する以上、避けられないのが通学問題であり、スクールバス問題である。そこで、安全安心に運行できる為の運転手確保はどのように考えているか。また令和9年に中学校再編しなくてはならない理由を伺う。

理 中学校の再編は、未来あるこども達に一刻も早くより良い教育環境を提供するために進めているところであり、運転手の確保が難しいことで再編を先送りすることは考えていない。今後、他の検討課題も含め、関係機関と協議・協力しながら開校を目指して鋭意努力していきたい。